

記憶の仕方には、<sup>きめいはふ</sup>機械的記銘法(丸暗記)と論理的記銘法とあります。機械的記銘は、生後の三年間が最も強く、それ以後は年ごとに低下して行く、といふのが故・時実利彦博士のお説で、私の三十余年にわたる実際的指導でもその様に確認されております。

ですから、漢字の学習は、<sup>きめいはふ</sup>機械的記銘の最も強い時期、つまり幼児期にその主要な部分を習得してしまふやうにするのがよいわけです。しかし、不幸にしてそれをしないで、<sup>きめいはふ</sup>機械的記銘力が衰へて漢字の丸暗記が困難になった子供(多くは小学校三年生以上)には、論理的記銘法に<sup>よ</sup>依らせるべきです。

そこで、本章では、漢字の論理的な学習法についてお話したいと思ひます。漢字は長い間“原始的な文字”であり、現代には適応しない文字だといふ、<sup>おもい</sup>不当な汚名を着せられて来ました。そのため、早晚廃止されるだらうといふ思はくから、その教育研究が<sup>おろそ</sup>疎かにされて今日に及びました。従って、漢字の学習は十年一日、いや百年一日のごとく、古い<sup>つめこ</sup>機械的な詰め込み教育しか行はれておられません。

しかし、漢字をよく研究してみますと、全体として縦に横に密接なつながりがあって、その一つをつまみ上げると、次から次と全体がひとり

でにつまみ上げられて来るやうに、一字の理解が次々と他の漢字の理解をうながすものがあるのです。

このやうな漢字を、今まではバラバラに切り離して、一字一字丸暗記して行きましたから、骨が折れて時間がかかったばかりではなく、せっかく苦労して覚えても直に忘れてしまふといふ欠点がありました。これが今までの学校教育で、漢字学習がうまく行かなかった大きな理由です。

英語の学習でも、接頭語や接尾語による論理的な学習が能率的であると、早くから実験により確かめられております。漢字は、英語などよりは<sup>すく</sup>ずっと勝れた体系を備へておりますので、それを利用しない方法はありません。

私は、学生時代から漢字の体系に関心をもち研究しておりましたので、体系的、論理的な漢字学習法を三十余年にわたって子供の指導に試み、その効果を調べて参りました。その結果、<sup>きめい</sup>機械的記銘力の衰へた子供でも容易に漢字が<sup>わか</sup>覚えられることが判りました。

体系的な漢字学習法の大きな特徴は、基本的な一字の学習で、それに数倍する漢字の意味でも発音でも類推して知ることが出来ることで

す。つまり、「一を聞いて十を知る」といふ言葉がありますが、一字を知ることによって十字が自然に解る、といふものです。

この学習法で学習しますと、さらに良い事に、それが“頭の体操”になり、推理力や洞察力が発達する、といふ利点があります。その上、この学習は誰にとっても非常に楽しいものがありますので、知らず識らず漢字力がついて来ます。

漢字の大部分は、部首と呼ばれる部品の組合せによって構成されておきます。例へば、常用漢字は全部で 1945 字ありますが、これに使はれてある部首は 200 個とはないのです。つまり、200 個未満の部品が組合せられて 1945 字の漢字が作られておるのですが、もっと別な組合せ方をすれば二千字でも三千字でも作ることが出来るのです。

ですから、これら 200 個未満の部品のもつ意味や発音を、その体質から正確に理解することが出来れば、1945 字の常用漢字は勿論のこと、それ以外の多くの漢字の意味でも発音でも、大よそ推察することが出来るやうになります。

例へば、“整”といふ漢字について考えてみることにしませう。この字は、“束(ソク)”“女(ボク)”“正(セイ)”といふ三つの部品によって組立

てられておますが、“束”は“木”にこれを束ねる輪の形の“<sup>たば</sup>”を加へたもので「木を束ねる」「木の束」の意味であることが解ります。“女”は手の形を表した“又”に棒の形の“ノ”を加へたもので、「手に棒を持つ」ことを表してゐることが解ります。“正”は足の真の形を表した“止”に止まるべき位置を示した“一”を加へたもので、「止まるべき位置に“正しく”立ってゐる」ことを表してゐることが解ります。

ですから、“整”といふ字は、「木を束ねて不ぞろひになつた所を、棒を持ってたたき、きちんと束をそろへ正しくする」といふ意味を表してゐることが、その部首から汲み取ることが出来ます。また、この三つの部首のうち、最も重要な働きをしてゐるのは“正”ですから、“整”の発音は“セイ(正)”であることが解ります。

この字を試みに和英辞典で調べてみますと、

to out (things) in order

と出ておます。to put は“女”の意味と同じで、“束”は things に当ておます。order の意味は全く“正”と同じです。つまり、“女” = to put、“束” = things、“正” = order で、“整”といふ一字が、英語の“to put (things) in order”といふ意味を表してゐて、“整”だけを見ますと、字形

が複雑で、難しさうに見えますが、その意味から考へてみますと決して複雑ではないことが解ると思ひます。

このやうな構造をもつ漢字を、機械的にかむしゃらに覚えようとしたら、確かに難しいと言ふべきでせう。しかし、その構造をよく調べて、その部品を一つ一つ吟味して、これを論理的に把握<sup>はあく</sup>するならば、漢字ほどやさしく、楽しく覚えられて、しかも忘れにくい文字は他に無いと思ひます。

ですから、漢字が難しいといふのは漢字の構造に無知だからであつて、その構造を分析して論理的に学習するならば、漢字は世界一理解しやすく、覚えやすく、忘れにくい文字だといふことが出来ると思ひます。